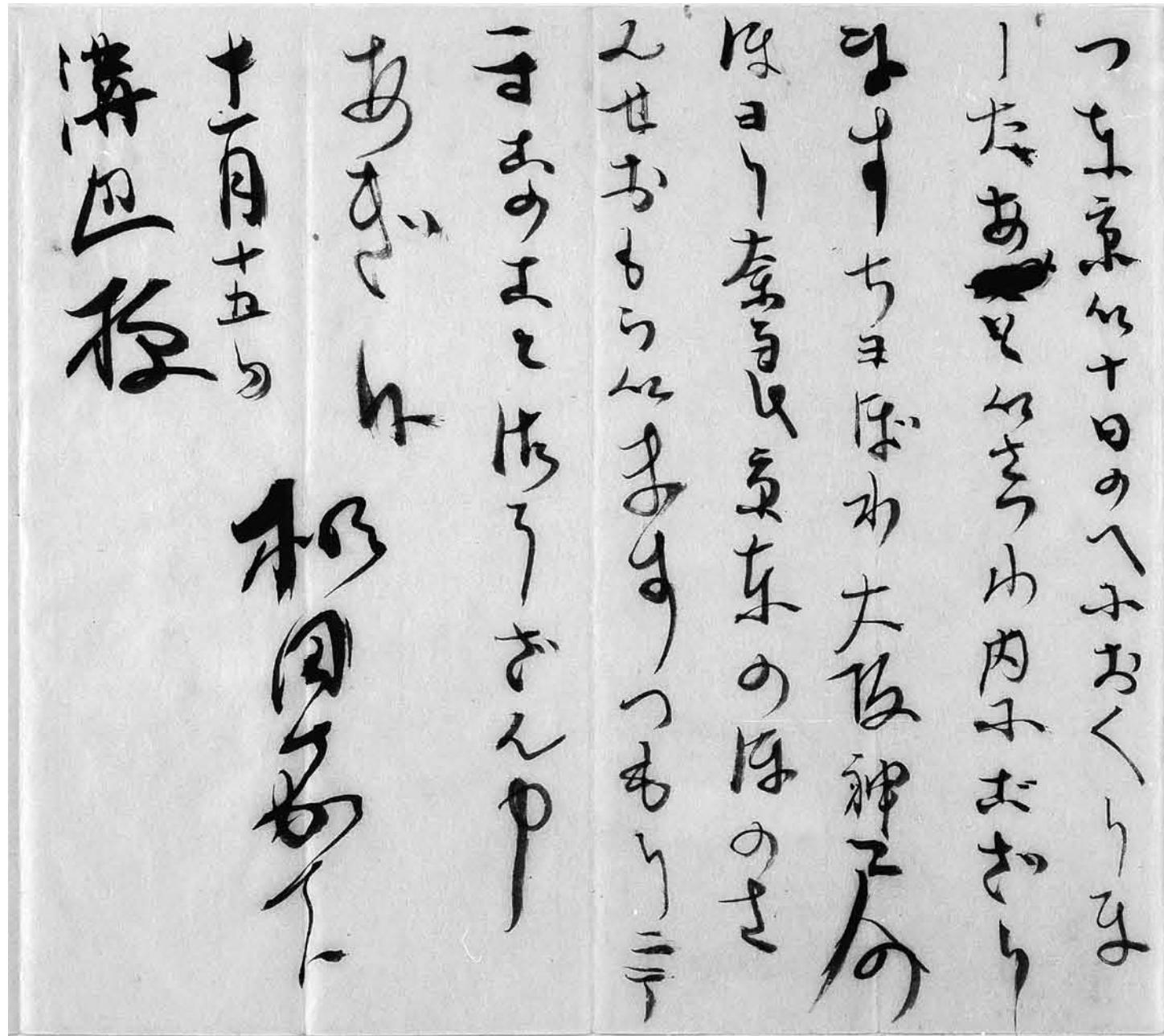


明治時代の平城宮跡保存運動の資料

下の写真は、明治時代の手紙です。読んでみてください。意味がわかりますか？一読したくらいではわからないでしょう。ずいぶんたどたどしい文字です。悪く言ったら失礼ですが、ただ、書いている本人が無筆だと言っているのですから、許してもらいましょう。この手紙は、明治時代に平城宮跡の保存運動に奔走した棚田嘉十郎の手紙です。奈良で植木屋をしていた人ですが、そのような一市民が、書けない字を書いて、一生懸命に運動している雰囲気が伝わってきます。このような資料を読み解いていくと、平城宮跡保存の歴史がわかつてきます。

文字は右に示しておきました。署名簿(帳簿)に賛同の署名を集めている内容です。東京で華族の署名を集めていること、2冊目の新しい署名簿を作ったことなどが語られています。彼の最大の同志、溝辺文四郎に宛てた手紙で、溝辺家で今まで大切に保管されてきました。右上の写真が、その署名簿の1冊目です。表紙には「平城宮舊趾紀念翼賛簿」とあるのですが、読めないほどに擦り切れているところに、その苦労がしのばれます。(文化遺産部 吉川聰)

↓棚田嘉十郎自筆書翰（実寸大） 溝辺家所蔵



第弐号の新ちヨみん式さ
（帳面）
（冊）



○「こ」は古のくずし字
○「に」は尔のくずし字

まだこりから小杉様と亀谷様
笠原様とくわどくくわいにだして百
人以上のさんせおもてめて
う脱(手紙)が来たりか
やろとのせかみおきてたり
人以上のかんせおもてめて
ちヨほめあひそひの新ちヨ
ほめ武さう十日つふ二うをま
一車えよひもひきつおく
このえがみきひよたのを
東川号の引ちヨソ人ニさ
つ大一らかひよみてた内一

まだこりから小杉様と亀谷様
笠原様とくわどくくわいにだして百
人以上のさんせおもてめて
う脱(手紙)が来たりか
やろとのせかみおきてたり
人以上のかんせおもてめて
ちヨほめあひそひの新ちヨ
ほめ武さう十日つふ二うをま
一車えよひもひきつおく
このえがみきひよたのを
東川号の引ちヨソ人ニさ
つ大一らかひよみてた内一

○「じ」は志のくずし字